

# 明治新聞雑誌文庫 ニュースレター

第五號  
平成三十一年三月二十九日(金)  
編集・発行  
東京大學大学院法學政治學研究科  
附屬近代日本法政史料センター  
明治新聞雑誌文庫  
〒113-0033  
東京都文京区本郷七-3-1  
電話 〇三-五八四-1137  
FAX 〇三-五八四-1121

年二回発行

URL  
<http://www.meiji.j.u-tokyo.ac.jp/>  
Mail  
lmeiji@j.u-tokyo.ac.jp  
Twitter  
@UTokyo\_LMeiji

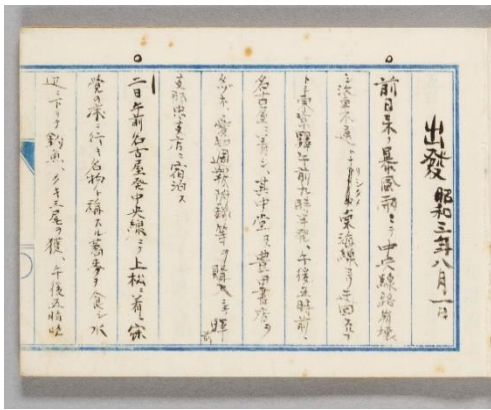
## 外骨資料インターネット公開へ

### 学術資産等アーカイブズ事業で公開開始

昨年十月十一日、宮武外骨蒐集資料のなかからパンフレット類がインターネットで公開されました。平成二十九年度から続く東京大学学術資産等アーカイブズ事業での成果が、いよいよ皆さんのお手元でご覧いただけるようになりました。

ユニークな貼り込みなど、見て楽しい資料が多数含まれています。たとえば、外骨が主任就任後行った資料蒐集旅行記録『東北旅行日記』には「熱望です一枚の新聞一冊の雑誌でも」とあり、蒐集にかける情熱をご覧いただけます。

『東北旅行日記』(冒頭)  
昭和3年のひと月近くに渡る蒐集旅行が記されている



東京大学 宮武外骨 検索

公開後多くのアクセスがあり、ツイッターですぐにつぶやきが始まったことなどから、外骨の資料をインターネットで見られることへの熱い期待が感じられます。学術資産等アーカイブズ事業による明治文庫資料のデジタル化は現在も継続中です。来年度は「府藩県制史関係資料(仮)」の画像公開を予定しています。「東京大学 宮武外骨」でぜひ検索してください。

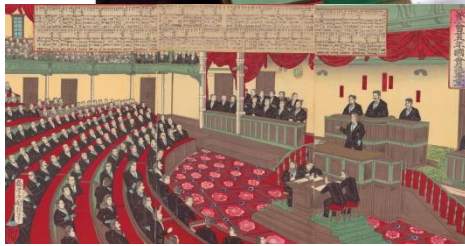
### 『国立公文書館ニュース』

#### Vol.16に掲載

第四号で国立公文書館の積極収集事業への協力について掲載しましたが、昨年十月四日に、協力機関として『国立公文書館ニュース』の取材を受けました。取材者の方々に文庫内をご案内した後、閲覧室で文庫職員へのインタビューと写真撮影が行われました。



取材を受ける職員  
▼デジタル化された『第二回 会廿五年国会議事堂』



「特集 歴史の「行間」を探して」のほか「教えて、こぶんちゃんさん」に記事が掲載されています。バックナンバーは国立公文書館のウェブサイトで公開されていますので、ぜひご覧ください。

### NHK「ファミリーヒストリー」

#### に撮影協力

NHK「ファミリーヒストリー」(二〇一八年十一月二十六日(月)放送)に撮影協力しました。



▲『関東新報』を撮影するカメラマン

### 保存容器への収納進む

耐震改修工事に伴う移転に向けて、資料を安全に運ぶことができる保存容器(箱)への収納を進めています。昨年十月、十二月には新聞と雑誌、今年二月には新聞を、資料のサイズに合わせたオーダーメイドの中性紙保存箱へ収納する作業が行われました。今年度は約四八〇箱の保存箱を、寄付者の皆様のご支援のおかげで作成することができました。心より御礼申し上げます。



▲見事に収納された新聞

# 魅せる 広がる明治文庫

## 南アルプス市立図書館

### 「遺(のこす) 切刀亀内」展

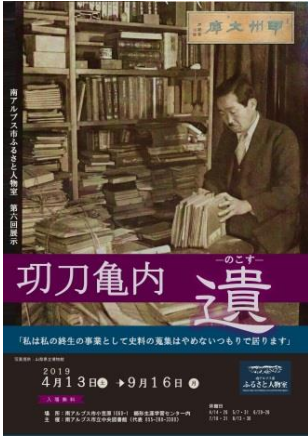
#### に調査協力、出陳

南アルプス市立中央図書館主催の南アルプス市ふるさと人物室第六回展示「遺(のこす) 切刀亀内」(会期 二〇一九年四月十三日(土)～九月十六日(月))に『外箱「峡中新報」』など資料六点を出陳します。

切刀亀内は「甲州文庫」の創設者で、宮武外骨との親交もありました。今回の出陳資料からは「甲州文庫」と明治文庫の関係が見えてきます。

南アルプス市立図書館による事前調査では文庫職員も協力。外骨の『公私月報』に記載があることがわかり、今回改めて整理・公開できた資料もあるなど、明治文庫としても様々な発見がありました。現物の出陳は会期前半の六月十九日(水)まで、会期後半はパネル展示となります。ぜひ足をお運びください。

◀「遺(のこす) 切刀亀内」展ポスター



## パナソニック汐留ミュージアム

### 「子どもたちのための

#### 建築と空間展」に出陳

パナソニック汐留ミュージアムの「子どもたちのための建築と空間展」(会期 二〇一九年一月十二日(土)～三月二十四日(日))に『日本の家庭』臨時増刊号の挿絵を出陳しました(パネル展示)。この展示は二〇一九年七月二十七日(土)～九月八日(日)に青森県立美術館でも開催されます。

## 東京大学広報誌「淡青」

### 特集「猫と東大」に掲載



▲「宮武外骨絵葉書帖「猫」より年賀状

二〇一八年九月発行の東京大学広報誌『淡青』三十七号の特集は、研究対象としての猫から猫好き教員の座談会まで幅広い話題を集めた「猫と東大」でした。この中で、明治文庫の所蔵資料の猫たちが紹介されています。

『淡青』バックナンバーは東京大学ホームページでご覧いただけます。

## 移転準備作業での収穫

### 欠号・新規資料次々見つかる

昨年十月に続いて二月に行われた集中閉館でも、ジュニアスタッフ(法学部生による明治新聞雑誌文庫の業務お手伝い)の協力で館内の整理が進みました。

今回も、明治文庫で欠号となっていた新聞や、明治～大正期の様々な印刷物、文庫の歴史に関わる資料が見つかるなど、大変な作業の中にもうれしい発見がありました。

今年卒業するジュニアスタッフからは、今回の作業を終え「常に何十年先を見越して保存を考える姿勢は学部の生活では得られない視点となりました」「又とない貴重な機会」との感想もあり、充実した時間となったようです。

明治文庫の先人たちが資料を遺していかうとした意志を感じつつ、今後「明探」への登録など資料保存・公開を進めてまいります。

◀「猫の変わり目」『團圓珍聞』より



◀発見された資料の数々

調査作業を行うスタッフ▶

## ■耐震改修工事準備

### 計画について

工事期間中は休館となり、資料をすべて退避させ、事務室も移転となります。詳しいスケジュールはまもなくお知らせできると思いますが、ご来館の際にはホームページのカレンダー、当文庫ツイッターをご確認くださいませようお願いします。



※スケジュールについては、随時、明治新聞雑誌文庫ホームページ <http://www.meiji-u-tokyo.ac.jp/index.html> 等でお知らせしております。